

公益財団法人日本精神衛生会

令和7年度 事業報告書

事業の概要

令和7年度は、次の事業を実施した。

1. フォーラム「メンタルヘルスの集い（第40回日本精神保健会議）」の開催

テーマを「優生保護法と精神医療～報告書から未来へ～」として、東京新宿区の晴和ホールにて、対面とオンライン配信のハイブリッド形式で開催した。

優生保護法は1948年、戦後の混乱期に制定された。それに基づく強制断種手術に対する国の責任が2024年の最高裁判決で明確に示された。残念なことに日本精神衛生会も戦前は国民優生法の制定、戦後は優生保護法による強制断種政策の促進に加担していた。当会では自らの責任を明らかにするため2020年に調査委員会を設置、2025年7月に報告書をまとめ公表した。

今回のメンタルヘルスの集いでは、報告書作成過程で明らかとなった当会の責任について説明するとともに、仮に優生保護法制定時と同様の社会の混乱が生じた場合を含めて、将来同様の過ちを犯さないために何が必要か、精神科医療・社会福祉に携わる者として何を心しておくべきか議論を行った。

本フォーラムは佐々木司理事が準備委員長となり、副委員長に藤井克徳理事、オブザーバーに小島卓也理事長、外部から後藤弘子氏（千葉大学）、齋藤有紀子氏（北里大学）の2名が準備委員として参加し企画した。

なお、本フォーラムは「令和7年度健康や命を守る医療に関する普及啓発活動」として、公益財団法人JKAより競輪公益資金の補助を受けて実施した。

●メンタルヘルスの集い（第40回日本精神保健会議）

日 時：令和8年3月14日（土） 10：30～16：00

テーマ：優生保護法と精神医療 ～報告書から未来へ～

内 容：

特別講演「『不良な子孫』の出生防止と人権侵害 ―優生保護法の歴史から―」

松原 洋子（立命館大学大学院特任教授）

シンポジウム「優生保護法と精神医療 ～報告書から未来へ～」

「優生保護法問題が明らかにした日本の精神科医療」

徳田 靖之（徳田法律事務所 弁護士）

「加害の構造を探る」

上東 麻子（毎日新聞記者）

「日本精神衛生会の調査報告書概略」

佐々木 司（日本精神衛生会理事 精神科医）

「報告書からわかったこと・わからなかったこと」

齋藤有紀子（北里大学医学部准教授 外部調査委員）

指定発言

堀合雄一郎（特定非営利活動法人さざなみ会理事長）

照井 あき（津軽保健生活協同組合健生病院）

コーディネーター

藤井 克徳（日本精神衛生会理事 日本障害者協議会代表）

総司会

宮本 有紀（東京大学精神看護学分野准教授）

参加者：会場 83名 オンライン 207名

なお、このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」204号（令和8年6月発行）に収録する。

2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学や精神保健福祉関連団体等との共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しており、今年度は下記のとおり実施した。

●第81回精神保健シンポジウム（久留米）

日 時：令和7年12月21日（日）13：00～16：00

会 場：久留米シティプラザ・久留米座

共 催：久留米大学医学部神経精神医学講座

後 援：福岡県教育委員会

テ ー マ：スポーツや学習と睡眠 ～質の高い眠りが未来を変える～

内 容：講演と発表

特別講演「アスリートが向き合う 休養とコンディションのありかた」

本多 雄一（福岡ソフトバンクホークスコーチ）

講 演「スポーツと睡眠～最高のパフォーマンスを引き出す眠りとは～」

比江島啓至（久留米大学医学部神経精神医学講座准教授）

発 表「学習と睡眠—なぜ睡眠が必要か？—」

加藤 隆郎（久留米大学医学部神経精神医学講座助教）

発 表「小・中学生における睡眠パターンと登校状況に及ぼす影響」

大西 良（筑紫女学園大学人間学部人間学科准教授）

発 表「学校教育における睡眠指導の取り組み」

坂田 真一（久留米大学附設中学校・高等学校生徒指導部長）

発 表「学校教育における睡眠指導の取り組み」

中尾 哲也（久留米工業高等専門学校機械工学科教授）

発 表 久留米大学学生による成績と睡眠の関係
司 会 小曾根基裕（久留米大学医学部神経精神医学講座教授）

参加者：８７名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」２０３号（令和７年３月１５日発行）に収録した。

３．広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

- ① ２００号（令和７年６月１５日発行）Ａ５判１３８頁 １２００部
特集 第３９回メンタルヘルスの集い
戦後８０年とメンタルヘルス～私たちと社会を振り返り、これからを考える～

- ② ２０１号（令和７年９月１５日発行）Ａ５判１２２頁 １２００部
特集 新たな睡眠健康増進を目指した我が国の政策
～健康づくりのための睡眠ガイド２０２３による睡眠健康啓発の発展～

- ③ ２０２号（令和７年１２月１５日発行）Ａ５判１１６頁 １２００部
特集 現代を生きる女性のメンタルヘルス～心と体と社会と～

- ④ ２０３号（令和８年３月１５日発行）Ａ５判１３４頁 １２００部
特集 第８１回精神保健シンポジウム（久留米）
スポーツや学習と睡眠～質の高い眠りが未来を変える～

４．精神保健福祉関係冊子の出版

市川宏伸理事が編集委員長となり、加藤進昌理事、外部から柏淳（ハートクリニック横浜）、太田晴久（昭和医科大学）を編集委員に迎え、こころの健康シリーズⅩとして刊行を開始した「成人の発達障害とメンタルヘルス」のNo.１～No.４（各Ｂ５判８頁）を以下のように発行した。発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

No.１ 児童青年精神科と発達障害 ―自分の経験を中心に―

日本発達障害ネットワーク・日本精神衛生会 市川 宏伸 著
令和７年６月発行 ２０００部

No.２ 成人の発達障害を専門として ―自分史の最終楽章―

公益財団法人神経研究所・晴和病院理事長 加藤 進昌 著
令和７年９月発行 ２０００部

No.3 「成熟した発達障害成人像」の問いからニューロダイバーシティを考える

一般社団法人 子ども・青少年育成支援協会 村中 直人 著

令和7年12月発行 2000部

No.4 障害像の広がりとビジネス視点による就労支援の再定義

～法定雇用率2.7%時代におけるパラダイムシフト～

株式会社 Kaien 代表取締役 鈴木 慶太 著

令和8年3月発行 2000部

5. メールマガジンの発行

当会の活動や関連イベント、精神保健に関わる内外の動向などを発信するメールマガジン「日本精神衛生会こころのメルマガ」を林直樹理事が作成し、メールマガジン登録者へ配信した。

第11号 (令和7年 4月14日発行) 配信数 540

第12号 (令和7年 7月11日発行) 配信数 560

第13号 (令和7年10月17日発行) 配信数 574

第14号 (令和8年 1月16日発行) 配信数 574

6. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として、国内の精神保健福祉諸団体と精神保健福祉の推進に協力した。また、今年度に活動を停止した WFMH（世界精神保健連盟）日本支部の後を引き継ぎ、WFMH に会員として加盟した。広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。

7. 日本精神衛生会と優生保護法等との関係に関する調査報告書の公表

2019年に外部からも委員を招いて発足した、日本精神衛生会と優生保護法等との関係に関する調査委員会（委員長：佐々木司理事）が7年間22回の委員会を開催してまとめた報告書を、2025年7月24日に厚生労働省記者会で参加したマスコミ各社に発表し、その後ホームページで公表した。